

徳法寺

聖徳太子

杉谷 淨

昨年は親鸞聖人が誕生して八百五十年目ということで、浄土真宗各派が様々な行事を行いました。その一つが西本願寺系の龍谷大学が龍谷ミュージアムで行った「真宗と聖徳太子」展でした。

現在、真宗寺院では、正面に阿弥陀如来像、左右に親鸞聖人と蓮如上人の絵像、さらにその横に聖徳太子の絵像と、親鸞聖人が「正信偈」の中に挙げていらつしやる七人の高僧（七高僧）の絵像が掛けられています。この形式は蓮如上人が浄土宗から真宗を独立させた室町時代以降に徐々に整備されていったものです。それ以前の親鸞門流寺院で、本尊の阿弥陀如来の次に大切にされていたのが聖徳太子でした。この展示は歴史を追ってこのことを示す企画でした。

浄土宗であった頃の親鸞門流寺院は、法然上人が宗祖でしたから、親鸞聖人の命日である「報恩講」と法然上人の命日である「知恩講」を勤めていたことが知られています。しかしこのお二人以

上に大切にされていたのが聖徳太子でした。徳法寺のように江戸期に創建された新しい寺にはありませんが、鎌倉期や室町期に建立された真宗寺院には木造の聖徳太子像や聖徳太子絵伝が多く伝えられています。聖徳太子というと、かつて一万円札に描かれていた壮年の凛々しい姿を思い浮かべる方が多いと思いますが、真宗寺院に伝えられている聖徳太子木像の多くは「南無仏太子像」と呼ばれる、数え二歳(今でいう一歳)の太子が、お釈迦様の涅槃会(二月十五日)の日に、東の空を拝み「南無仏」と称えている赤子の聖徳太子です。

親鸞聖人は五百四十首を超える和讃(わさん)を残しておられますが、その内の百八十九首が聖徳太子に関するものです。和讃は親鸞聖人が御門徒の方々に仏教の教えを分かりやすく伝えるために和語で書かれたものですから、その四割近くもが聖徳太子を讃えたものであるということは、親鸞聖人の教えが聖徳太子を中心にしたものであったことを意味しています。ですから親鸞聖人の教えを聞いた方々は、阿弥陀如来と共に聖徳太子を信仰の中心としていたのでしょう。

徳法寺の客間には、親鸞聖人の聖徳太子和讃が一首掛けられています。これは漢文で書かれている聖徳太子の十七条憲法の一つを親鸞聖人が和語に訳したもので、「とめるものうたへは

いしをみづににいるがごとくなり ともしきもの
のあらそひは みづをいしににいるるにたりけり」
というものです。力を持った者の声は石を水に投げ込んだ時のように周りに広がっていくが、弱き者の声は水を石にかけた時のようにすぐに消えてしまふ、という意味です。憲法とは、政府が国民に対して守るべき約束を記したものです。その中で聖徳太子は、弱き者の声に耳を澄ますことを宣言しているのです。そのような聖徳太子を、親鸞聖人は日本のお釈迦様として崇めていらつしやいました。聖徳太子の様に仏に帰依する(念仏)ことで、自分も聖徳太子のような人間になりたいと願っていらつしやったのでしよう。

ちなみに徳法寺の聖徳太子絵像は「聖徳太子孝養像」という、聖徳太子が父・用明天皇の病氣平癒を祈り、仏に香を捧げている十六歳の時のお姿です。お参りの際には是非一覽になってください。

木造 南無仏太子像
南無宗、室町時代
龍谷大学、龍谷ミュージアム



親しみやすい仏教・仏壇篇

杉谷 伊吹

こんにちは、今回は仏壇について書いてみようと思います。伝統的な仏壇は、宗派によって仏壇内の荘厳（しょうこん）が異なっているだけではなく、生産地による特色もあるのです。石川県内の、七尾仏壇・金沢仏壇・美川仏壇も、それぞれ少しずつ異なる特徴を持っています。石川県の仏壇は金箔が貼られています、黒檀や紫檀、もしくは白木に塗装や印刷、シートを貼った唐木仏壇もあります。近年は、従来のものに比べると宗派色・地域色が少ないミニ仏壇が増えてきましたので、お持ちの仏壇に合わせた荘厳をなさればよいのですが、基本的なお東（大谷派）の仏壇荘厳というものがありませんので、真宗大谷派名古屋教区教化センターから出ている『真宗大谷派お内仏のお荘厳』の資料と解説をもとに、説明していこうと思います。

①本尊↓阿弥陀如来立像(絵像)。真宗門徒にとって一番重要な本尊である、阿弥陀如来の立像です。よく見ていただくと、指で丸を作っています、これが阿弥陀如来の特徴です。写真の仏壇は名古屋式に二つお仏飯（おぶくさん）が置かれています、金沢では一つになります（寺院では二つ置きます）。ご飯の盛り方は、お東は上を平らに、お西では尖らせませす。それぞれ悟りを表す蓮の、実と蕾を表すと言われています。



②脇掛(右)↓「歸命盡十方無礙光如来」(十字名号)もしくは宗祖親鸞聖人の御影(ごえい)。「歸命盡十方無礙光如来」は「南無阿弥陀仏」(六字名号)の漢字訳です。ちなみに「南無阿弥陀仏」はインドの言葉の「ナモアミタブツダ」の音写です。寺院では宗祖とされる親鸞聖人が描かれた御影が掛かっていますが、御門徒の仏壇でも親鸞聖人の御影が掛かっていることがあります。この場合はお軸の前にもお仏飯を置きます。

③脇掛(左)↓「南無不可思議光如来」(九字名号)もしくは第八代本願寺住職蓮如上人の御影。「南無不可思議光如来」も「南無阿弥陀仏」と同じ意味になります。「アミタ」には「無碍(妨げることができない)」と「不可思議(人間の知識では考えることができない)」という二つの意味がありますが、ご門徒の仏壇にも掛かっていることがあります。この場合もお仏飯を置きます。

写真は名古屋仏壇です。ご自宅の仏壇との違いがわかりますか？金沢で名古屋仏壇は見たことはありませんが、高岡仏壇や新潟仏壇、福井仏壇などは見ることがあります。どの仏壇も職人の方々によって作り上げられた芸術作品です。

④法名軸↓お内仏の左右側面の壁に掛ける、先祖の法名を書いた軸です。基本的に、真宗では位牌ではなく法名軸もしくは法名帳を用います。

⑤法名軸↓④と同じですが、複数の法名が書かれたものを、下手となるこちら側に掛けるとされています。

⑥宮殿(くうでん)↓本尊を安置する仏殿。如来の領域を表しています。

⑦金灯籠(きんとうろう)↓本尊を照らすための灯籠ですが、実際には明かりはつきません。寺院にはありますが、ご門徒の仏壇では配置されていないことが多いようです。

⑧須弥壇(しゅみだん)↓。古代インドでは、世界の中心に神々が住まう聖なる山、須弥山(しゅみせん)があるとされてきました。如来はこの須弥山の遥か上空にいとされていることから、宮殿を支える壇として置かれています。

⑨上卓(うわじょく)↓須弥壇の上に置かれた、如来へのお供えを置く卓。上にお仏飯と華瓶(けびょう)、火舎香炉(かしゃこうろ)を配置します。金沢では火舎香炉の位置に、お仏飯が配置されていることが多いようです。法要の時には打敷(うちしき)を掛けます。

⑩華瓶↓水を備える器。楡(しきみ)または青葉をさします。

⑪火舎香炉↓炭火を入れ焼香するための香炉ですが、実際にはあまり使われません。金沢では獅子が乗っている四角いものが主流です。

⑫前卓(まえじょく)↓須弥壇の前に置く、如来が

備える功德を表現する卓。花瓶(かひん)と土香炉(どこうろ)、鶴亀の燭台を置きます。金沢では土香炉の位置に、火舎香炉が置かれていることが多いようです。上卓と同じく法要の時には打敷を掛けます。

⑬花瓶↓生花をさす器。金色に限らず、青磁器など色々なものがあります。

⑭土香炉↓折った線香に火をつけ、寝かせて置きます(燃香)。火舎香炉の代わりに、寝かせたお線香の上にお香をのせて焼香するのが一般的です。金沢では一番下の段や、仏壇の外に配置されることもあります。

⑮鶴亀の燭台↓ろうそくを立てる燭台です。名前の通り鶴と亀が合わさった造形をしています。鶴亀の燭台を用いるのはお東だけです。東の寺院や門徒であると分かります。

⑯木蟻(もくろう)↓鶴亀の燭台にロウソクを立てていない時に、代わりに置く朱塗りの木製ロウソク。火はつきません。寺院では用いていますが、ご門徒の仏壇では、電球のついた白いロウソクの形をしたものがよく使われています。

⑰輪灯(りんとう)↓お参りの時つける明かりです。かつては灯芯を置いて油をさして使っていましたが、今では徳法寺をはじめ、多くの寺院でも電球を使っています。

⑱打敷(写真別)↓金襴(きんらん)などで美しく作られた三角形の敷物で、法要の時に上卓と前卓にかけます。普段から掛けている家もよく見られます。宗派によっては四角いものもあります。

打敷



本当はまだいくつか紹介すべき仏具があるのですが、全部は伝えきれないので今回はここまでにします。仏壇は現在だけでなく、これまでも時代と共に変化し続けてきましたので、形式についてはほどほどで受け止めて頂ければ良いかと思えます。仏壇は故人を偲び、仏に祈り、また仏に祈られる場です。一番大切なのは気持ちですから、そのための環境づくりとして仏壇を飾るのです。ご自分の家の仏壇と違っていても、問題はありませぬのでお気になさらないでください。僅かでも参考になる部分があれば幸いです。仏壇についてはまたいずれ、歴史や成り立ちなども書いてみたいと考えています。それでは皆様お元気で。

徳法寺からのご案内

徳法寺 仏教入門講座

毎月二十一日午後七時半より

講師 徳法寺住職 杉谷淨

心の相談室

毎月第四土曜日の午後三時から午後五時まで

横安江町商店街にある「いちよう館」二階にて真宗大谷派の僧侶による「心の相談室」を開いております。個室で相談をお受けします。仏事はもちろん、家庭や職場、学校など、どのようなお話もお聞きします。相談は無料です。予約も必要ありません。相談内容は一切外に漏れることはありませんので、お気軽にお訪ねください。

サンガ茶話会

毎月第一木曜日の午後三時から午後五時まで

横安江町にある東別院敷地内「真宗会館」一階囲炉裏の間にて「心の相談室」スタッフによる「サンガ茶話会」を開いております。座談形式となっております。僧侶やその場に集まった方々とお話しませんか。いろいろな方に聞いてほしい話、聞いてみたい話がある方はお気軽に参加してください。他の参加者の話を聞いていただけでも構いません。参加は無料です。予約も必要ありません。出入りも自由ですので、途中参加、途中退室でも大丈夫です。お茶とお菓子を用意してお待ちしておりますので、お気軽にご参加ください。

十一月 足利仏教七 応仁・文明の乱
十二月・一月・二月はお休みします。
三月 足利仏教八 東山文化と大衆文化

もうしばらく足利時代の話が続きます。応仁・文明の乱は、私が高校生の時には、うまく説明ができていないとされていましたが、歴史学の進歩によって今ではかなりわかりやすくなっています。歴史という過去の事ですので変わらぬものと思われがちですが、実際にはわかっていないことがほとんどです。新しい発見や知見が示される度に大きく変わってきています。

この時代は、日本文化を代表する日本庭園・華道・茶道・能・歌舞伎などが生まれた時代でもあります。民衆が自立していく中で、貴族・武家中心であった文化が大衆の中にも広がり、新たな文化が誕生していった時代でもありました。
参加費はお賽銭のみです。どなたでもお気軽にご参加ください。

表題揮毫 中田 八千代

徳法寺 石川県金沢市野町二丁目三二番四号

TEL 076(241)5219

ホームページ <http://tokuhou-ji.com>

令和七年

年忌法要のご案内

一周忌法要 令和六年死去

三回忌法要 令和五年死去

七回忌法要 令和元年死去

十三回忌法要 平成二十五年死去

十七回忌法要 平成二十一年死去

二十五回忌法要 平成十三年死去

三十三回忌法要 平成五年死去

五十回忌法要 昭和五十一年死去